

令和5年度 入学試験問題 実技1 基礎運動能力検査  
【スポーツ文化専攻 後期日程】

1.ボール投げ

「両足を揃えた状態から、バスケットボールを両手で保持し、後頭部から頭上を通過させながら、全身を使って前方に投げる。図のような投てきゾーンを使用する。」

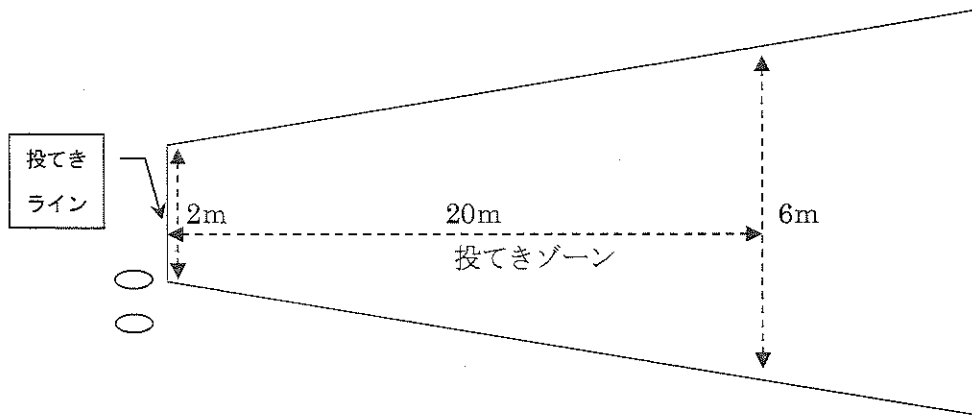


図. ボール投げ

測定方法：

- (1)投てき距離は、落下点を投てきラインから垂直に測定し、1cm単位で記録する。
- (2)投てき時に上体をひねったり、左右に傾けたりした場合はファールとする。また、投てき後に投てきラインを踏み越した場合やボールの落下点が投てきゾーンから外に出た場合もファールとする。
- (3)ファールの試技は記録なしとする。
- (4)練習1回の後、連続して2回の試技を行い、試技の最高投てき距離を記録とする。2回ともファールの場合は1回に限り試技を認める。

ボール：

男女共にバスケットボール6号を使用する。

2.連続交互跳び

「両脚で前方に踏み切った後は、左右どちらかの脚を交互に使用し、男女共立ち5段の跳躍を行う。」

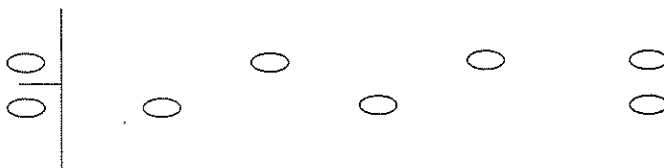


図. 連続交互跳びの例

測定方法：

- (1) 跳躍距離は、スタートラインに最も近い着地点をスタートライン中央から測定し、1cm 単位で記録する。
- (2) 跳躍の際、スタートラインを踏む、または踏み越した場合は、ファールとする。
- (3) ファールの試技は記録なしとする。
- (4) 練習 1 回の後、1 回ずつ計 2 回の試技を行い、試技の最高跳躍距離を記録とする。2 回ともファールの場合は、1 回に限り試技を認める。

### 3. 方向変換走

「スタートの合図後、図のように指定された数字の順に、1 辺 6m の正方形の頂点に置かれた標的を手で接触し、ゴールする。

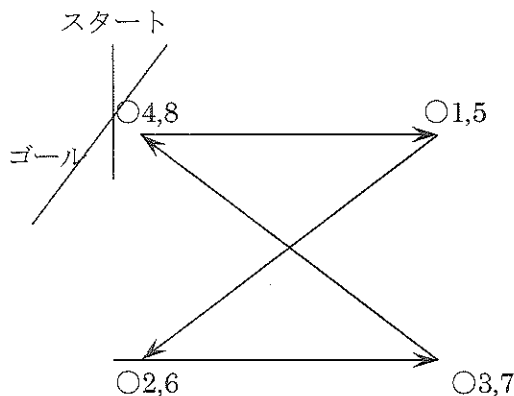


図. 方向変換走 (スタート、ゴール、接触の順番)

測定方法：

- (1) 「位置について、ピッ(笛)」の合図でスタートし、ゴールするまでの時間を 0.01 秒単位で計測、0.1 秒単位 (1/100 秒切り捨て) で記録する。
- (2) 標的に接触しなかった場合、標的に手以外で接触した場合は、ファールとする。
- (3) ファールの試技は記録なしとする。
- (4) 練習 1 回の後、1 回ずつ計 2 回の試技を行い、試技の最少タイムを記録とする。2 回ともファールの場合は、1 回に限り試技を認める。

標的：

高さ 30cm 程度のミニコーンを使用する